4 構　造

4-1 機　能

1．「一定の距離」離れた瞬間作動し、エアバッグ（気室）に炭酸ガスを流り込み膨らみます。最大限に膨らむまでにも、衝撃を緩和する効果があります。

2．胸部にあるハーネッシステム及び、キーボックスの背面部分には、プラスチックなどの際にとれらの突起物が原因となる衝撃を緩和・分散させるために、緩衝材のABS製プロテクターが取り付けてあります。

3．作動後、最大限に膨らんだエアバッグ（気室）は、徐々にガスが抜ける仕組みになっています。プラスチックへの衝撃度合いなどにより変わりますが、作動直後に身体への圧迫力があり、徐々にガスが抜けて圧迫力がなくなっていきます。息苦しい場合は、脱衣して圧迫を解消してください。

注意 4．ヒットエアージャケット及びグローブの生地、気室、マジックテープ、プラスナーバックル等へいたり、破損した場合は、正常な作動をしません。取扱店にご相談下さい。再生できない場合があります。

注意 5．事故などで作動し、傷・破損等が見当らない場合でも取扱店、又は当方にてメンテナンス（※3）を行ってから再使用する事をお勧めします。

〈※3〉メンテナンスとは、ケミカルに、傷・破損が見当らなくても、その中に組み込まれている気室に破損がある場合があるので、当方にて各気室に空気を入れ漏れがないか、又、組み込まれた部品に異常がないかを確かめる作業です。

4-2 気　室

1．気室の素材は、筒状のポリウレタンを使用し、より強度をもたせ、作動時の衝撃を出来るだけ多く吸収するようにしてあります。

2．通常、作動した瞬間の気室の圧力は、最大膨張時30kpa(0.3kg/㎠)程ですが、徐々に力が放出され、圧力はさがっていく様になっています。

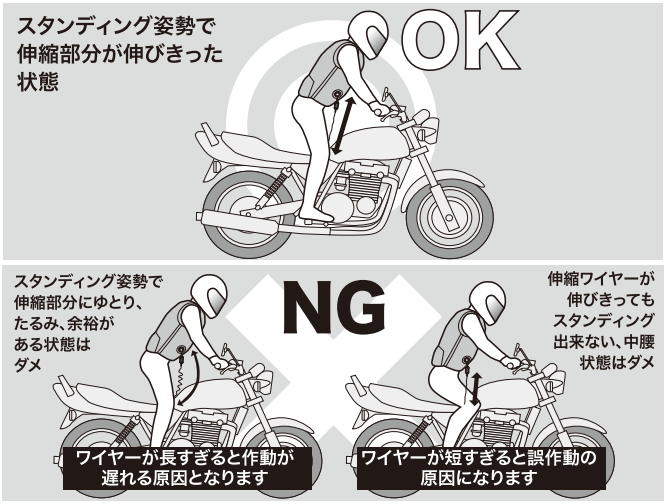
3．炭酸ガス（CO2）はキーボックスのシアカットプチューブを通り各気室（ポリウレタンフィルム）に送り込まれます。

4．破損等に対する強度は、ウエブの素材、ポリウレタンフィルム及び、縫製強度によっても違います。また、接触する物の形状、強度、摩擦等によって力が変わります。

○ ヒットエアーは、衝撃による多少のシワを和らげるために作られたものであり、接触物の形状及び、衝撃の度合いにより、破損等も考えられます。

《別売》収納用ワンタッチコネクター
バイクを降りた時にワイヤーを収納固定出来ます

伸縮ワイヤーの長さ調節方法
バイクにまたがりスタンディングし伸縮ワイヤーの**伸縮部分が伸びきった状態**にする



車上でスタンディングし
伸縮部分が伸びきった状態

地面からスタンディングし
伸縮部分が伸びきった状態

後部ステップからスタンディングし（中腰程度）伸縮部分が伸びきった状態

バイクの大きさ車種、ご自身の身長によって伸縮ワイヤーの取付位置、長さが異なります。
上記を参考にご自身にあった方法で調節して下さい。

3 各名称・形状

ヒットエアー付ジャケット・一体型エアバッグの各名称・形状

※デザイン、形状等は写真と異なる場合があります

5 構　造

5-3 伸縮ワイヤーとバイクの固定接続

伸縮ワイヤーのバイクへの接続方法、接続箇所は各種バイクにより異なります。
乗車時は様々な状況によりライダーの動きが変わります。その場面を十分想定し、誤操作による誤作動が起こらない様に、伸縮ワイヤーの長さ・バイクへの取付け位置を決めてください。
（伸縮ワイヤー取付方法・位置 P17～18参照）
不適切な接続の場合、誤作動や作動しない恐れがありますのでご注意下さい。

警告 1．座車時に、接続を解除した伸縮ワイヤーがエンジン等の高熱部分に触れた場合、変形や破損の恐れがあります。

2．伸縮ワイヤーは運転の妨げになる場所への取付けは避けて下さい。

3．伸縮ワイヤーをヒッチアーに接続しないで走行した場合に、車輪に絡み付く場所への取付けは避けて下さい。事故につながる恐れがあります。

注意 4．乗降時・走行時に伸縮ワイヤーなどがバイクの各部位に接触した場合や、ヒッチアー作動時にキーホールが抜けた際に伸縮ワイヤーの先に付けたキーホルダーバイクの各部位に接触し、傷つく場合があります。

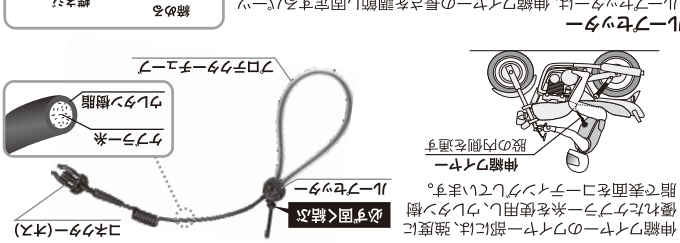
5．伸縮ワイヤーの取付けが不完全の場合、伸縮ワイヤーが抜けて作動しません。

6．外装にてすれ傷、ひびわれ、めくれ、ヒビ等の異常を確認した場合は新しいものに取り替えて下さい。そのまま使用すると、伸縮ワイヤーの切断やハーブセーフティーが抜けた原因となります。

7．伸縮ワイヤーのお取り替えは、各自の責任において適切に行って下さい。
また、事故の原因となりますので会社指定の伸縮ワイヤーを必ずご使用ください。

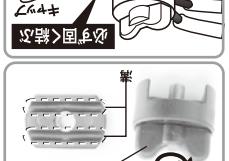
伸縮ワイヤー

伸縮ワイヤーのワイヤー部には、強度に優れたケブラーシ糸を使用し、ウレタン樹脂で表面をコーティングしています。

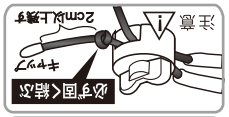


ハーブセーフティー

ハーブセーフティーは、伸縮ワイヤーの長さを調節し固定するパーツです。
乗車の際に、緩さが強く締まっている事を確認してください。
長さ調節する場合は、ワイヤーをハーブセーフティーの溝に挟み込み、緩さを強く締めてください。ハーブセーフティーより出たワイヤーは根元に結び目を作り（固く結ぶ）、先端部を2cm以上残して、余った部分を切り、キャップをはめてください。



※結び目が無いとワイヤーが抜けてエアバッグは膨らみません。

プロテクターチューブ

ハイクと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー。
伸縮ワイヤーをプロテクターチューブの中に通し、バイクのフレームやパイプなど、巻き付け箇所の形状に応じて、適切な長さに切って使用下さい。